

# 近年の災害と本書の活用について

## 総合防災ガイドブックの発行にあたって

近年、全国各地で地震や台風など多くの自然災害が発生し、人命や財産に甚大な被害を及ぼしています。本市でも「令和元年東日本台風」の際は、河川の氾濫や土砂災害により市内各所に大きな被害を受けました。

本市は、広大な市域を有し、浅川をはじめ18の一級河川が流れるほか、丘陵地や山間地もあり約3,600か所が土砂災害警戒区域に指定され、風水害への警戒は常に欠かせない状況にあります。地震においても、今後30年以内に70%の確率で発生すると言われていた多摩東部直下地震による最大震度は、東京都が令和4年5月に公表した被害想定では6強になると想定されています。令和2年に全世界に拡大し、今もなお、収束しない新型コロナウイルス感染症も、社会生活に大きな影響を与えていますが、こうした最中でも、自然災害の発生は待ってられません。

自然災害は、人間の力ではその発生を止めることはできません。しかし、災害と向かい合い、被害をできる限り少なくするための「減災」への備えや取組は可能です。

本市では、令和4年9月現在、501の自主防災組織が結成され、地域ぐるみで「自分たちのまちは自分たちで守る」ための取組が各地で行われています。こうした取組とともに、一人ひとりが感染症予防のための「新たな生活様式」の実践を含め、「身を守る」行動について日頃から考え、備えていくことが重要です。

このガイドブックは、市内全域の土砂災害及び洪水ハザードマップのほか、本市で起こりうる様々な災害時の行動や事前の備えに必要な情報を掲載しています。平時から周りの災害危険性を知っておき、いざというときには、自身、家族、地域の皆さんが適切な防災行動がとれるよう、災害対策の一助として活用していただければ幸いです。

## ◎近年の災害

近年では、台風の接近や前線の影響に伴う線状降水帯の発生により、日本広域で大きな被害となった「令和4年7月14日からの大雨」や、東海地方に大きな被害をもたらした「令和4年台風第15号」など、日本全国で風水害による被害が多発しています。

また、平成28年には熊本県、平成30年には大阪府、北海道、令和4年には福島県、石川県など、日本各地で大規模な地震が発生しています。

八王子市においても、「令和元年東日本台風」や「平成20年8月末豪雨」では、大きな被害を受けました。また、「平成23年東北地方太平洋沖地震」では、本市も震度5弱を観測し、鉄道が停止したことにより多くの帰宅困難者が発生したほか、その後も電力供給の問題から、計画停電が実施されるなど、我々の暮らしにも影響がでました。このように災害がいつ起こるか分からない今、一人ひとりの防災意識の向上が求められています。

## ◎本書の活用

本書は、八王子市の地域特性を踏まえ、洪水や土砂災害をはじめとした風水害に重点を置きつつ、様々な事象を掲載した、総合的なガイドブックとして作成しています。また、東京都が発行した「東京防災」「東京暮らし防災」「東京マイ・タイムライン」も併せて活用することで、より深い防災対策が学べますので、ぜひご活用ください。自分や家族の生命・財産を守るため、本書を有効に活用し、日頃から身近な災害の危険について把握し、防災についてしっかり話し合い、事前の対策を進めておきましょう。

東京防災 閲覧

検索 *click !!*



東京暮らし防災 閲覧

検索 *click !!*

